



今回の内容

- ① 総合患者相談窓口について紹介させていただきます・・・・・・・・・・大矢根忍
- ② 医療を取り巻く環境の変化の中で（医局長紹介）・・・・・・・・・・戎井理
- ③ 診療科紹介 脳神経外科 一当科で近年取り組んでいること・・・・・・・・藤原聡
- ④ ソウシンコラム・・・・・・・・・・玉木 みずね
- ⑤ お知らせ（次回の医療連携懇話会のお知らせ・媛さくらネットについて・メール登録のご案内）

① 総合患者相談窓口について紹介させていただきます

患者支援室 看護長 大矢根 忍

平素より県立中央病院の診療について格別のご高配を賜り、ありがとうございます。

まずは、昨年10月から導入しました「紹介・予約制」につきましては、開始後1年近くが経過しましたが、特段のトラブルなく円滑に進んでおりますこと、ひとえに地域の先生方のご尽力によるものと心より御礼申し上げます。

これからも地域完結型医療の推進と充実に力を注ぐ所存ですので、皆さまにおかれましても、ご紹介の際にはご予約をお取りいただくなど、引き続き地域完結型医療の確立に向けお力添えをお願い申し上げます。

さて、総合患者相談窓口では、患者さんやそのご家族が医療を受ける中で抱く、生活や病状への不安などの様々なご相談やご要望に対し、医療職以外の医療対話推進者を含めた多職種で対応しております。また、今年6月からは入院時重症患者対応メディエーターを配置し、集中治療領域の病棟への入院となった患者さんやご家族へのサポート体制を強化いたしました。



これは、突然の出来事に戸惑う患者さんやご家族の理解のお手伝いをし、意思決定の支援を行うことを目的としています。

このように、総合患者相談窓口は、医師の働き方改革など変遷を余儀なくされる医療の中にあって、公平・公正な医療の提供を県立中央病院が維持し続けられるよう多方面に日々取り組んでいます。



お受けする相談内容

- 受診相談について・当院からの紹介について
- セカンドオピニオンについて
- 診察に関することについて・医療費について
- 福祉制度など退院後のことについて
- 施設・環境に関することについて
- 職員の接遇やマナーについて ほか

相談方法

直接来所、電話、お手紙等

受付時間

月～金曜日(祝日を除く) 8時30分～17時00分



ご予約不要 ※午前は混み合うことがあります。

相談は**無料**です。時間外や休院日については、総合患者支援窓口は休みとなっております。予約のある患者さん等からのお問い合わせには対応しておりますので、代表電話 089-947-1111 へおかけください。

総合患者相談窓口はコチラから [Click!](#)



② 医療を取り巻く環境の変化の中で

医局長／糖尿病・内分泌内科 主任部長 戎井 理

令和6年の4月1日より医局長を拝命いたしました戎井 理（えびすい おさむ）と申します。私は伊予市双海町の出身で愛媛県立松山南高等学校を卒業後、昭和57年に愛媛大学医学部医学科に入学しました。昭和63年に卒業後、神戸市立中央市民病院（現 神戸市立医療センター中央市民病院）で2年間初期研修をした後、京都大学医学部第二内科の井村裕夫教授のもとで、内分泌に関する研究に従事しました。井村教授は人望が厚く誰からも慕われる内分泌分野での世界的な権威のある方です。学会で質問する際は単に発表内容を批判するのではなく、発表者や視聴者が共に勉強になる誰もがためになる質問をするように指導していただいたり、カンファレンスではいつも最先端の見解を教えていただいたり、医師として、研究者として、そして人として尊敬できる方です。私にとって井村教授は、今の医師としての自分を形成してくれたと言っても過言ではありません。この7年間の京都大学での研究の後、メルボルンのベーカー医科学研究所へポスドクとして2年間留学しました。

帰国後は静岡県立総合病院に3年半勤務したのち、平成14年9月より愛媛県立中央病院に赴任、平成18年4月より愛媛県立今治病院に3年間勤務し、再び平成21年4月より、愛媛県立中央病院に戻ってきて、現在に至るまで糖尿病、内分泌疾患の診療に従事しております。

私が当院に初めて赴任した時は藤井靖久院長先生、清水一紀先生が部長としておられましたが、定年退職、転勤などで、年長であった私が糖尿病・内分泌内科の主任部長の役職を拝命しました。その頃はまだ、一日100人の外来患者を1人の医師で診療している状態で、かつ、紙カルテを使用していたため、オーダリングシステム、電子カルテへの移行を行わなくてはならず、この一日100人の外来患者を地域の先生方に逆紹介すべく、松山医療圏の先生方を地図上にマーキングしながら医療連携の重要性と大切さを思い知らされた時期でもあります。今では糖尿病の専門医をもった先生方がクリニックでの診療をいただけるようになり、当時に比べれば、病診連携はスムーズに行えるようになっています。

また、赴任した当時は常勤医2名、専攻医1名でしたが、甲状腺エコーなどの検査をしながら、他科入院中の血糖コントロールなどの業務もあることより、外来を2診に増やして常勤医5名にまで増員、現在の診療体制を構築してきました。しかし、年間300人ほどの自科の入院患者、年間1300人前後の他科入院患者の血糖コントロール、毎日の甲状腺、頸動脈エコーなどの検査を行うと、まだマンパワー的に厳しい状況です。

今回、医局長の職を拝命して、日々の当直報告や人事異動等のありとあらゆる事務書類の処理、また臨床研究審査委員会や治験審査委員会、管理会議、運営会議など、多くの会議への参加業務も行っています。そして昨年度までと同様に、糖尿病・内分泌内科の主任部長の業務をこなしております。働き方改革で自分を含め診療科の5人の医師の時間外労働の制限が厳しくなったこともあり、他の管理職の先生方と同様に、実際の管理職の業務だけでなく、糖尿病・内分泌内科の診療業務も行いながら、新境地を開くべく邁進していきたい所存です。

医療を取り巻く環境は、医学的進歩、診療報酬の改正、コロナ感染や人口の高齢化に伴う状況、働き方改革など絶え間なく変化していることもあり、愛媛県の基幹病院としての当院もこれらの変化に対応して、組織自体が常に変化をしていく必要があると思われます。医局長として、微力ながら当院の変革のお手伝いができれば幸いに思っております。さらに活気のある愛媛県立中央病院になるように尽力していきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

③ 診療科紹介 脳神経外科 —当科で近年取り組んでいること—

脳神経外科 主任部長 藤原 聡

いつもご紹介いただき誠にありがとうございます。今年4月から脳神経外科主任部長になりました藤原と申します。今回は、当科で近年取り組んでいる新しい治療法について簡単に説明させていただきます。

①外視鏡の導入

脳神経外科の手術は、細かな神経や血管を相手にすることが多々あります。安全で確実な手技を行うためには手術用顕微鏡を使用する必要があります。肉眼での開頭操作が終われば、その後は顕微鏡下での手技となります。この顕微鏡に代わりうる存在として“外視鏡”が登場しました。2023年から愛媛県内他施設に先駆けて、この外視鏡を当院で導入いたしました。

“外視鏡”と言われてもピンとこない方が多いと思います。外視鏡手術とは、カメラを術野の近くに置き、4Kの3Dモニターに映し出した映像を見ながら手術を行うものです。モニターの術野映像を3Dで見るためには、専用の薄暗いサングラスのようなゴーグルをつけないといけません。開頭は明るい肉眼で行い、外視鏡が入る直前に外回りの看護師さんにゴーグルを装着してもらいます。カメラは清潔操作で術者の好きなように動かせるので、普通なら覗き込むのが難しい角度からも視野を得ることができます。これまでの顕微鏡手術では、手術台を上下左右に動かしながら、頭を傾けたり、手を精一杯伸ばしたりして、無理な姿勢での手技を余儀なくされるケースがありました。これが、外視鏡手術ではカメラを動かすだけなので、手術台を動かすことも減り、術者は常に顔を上げた同じ姿勢で楽に手技を続けることができます。助手の手が入れにくかったり、時に術野の反射光が強かったりする欠点もありますが、今後開発が進み改善されていくのだろうと思います。

②フローダイバーター治療の導入

未破裂脳動脈瘤の血管内治療で、現在注目されている治療の一つにフローダイバーター治療があります。フローダイバーターは、簡単に言うと、目が非常に細かい金属の筒（ステント）です。動脈瘤の入り口を塞ぐように、このステントを留置すると、ステントの中だけに血流が流れようとするため、動脈瘤内に入る血流がだんだん減少し、最終的には瘤内が血栓化し治療してしまうこととなります。これまでのネッククリッピング術やコイル塞栓術では、動脈瘤に直接コンタクトする必要がありましたが、なんと、フローダイバーター治療では動脈瘤に触れることなく安全に治療ができてしまいます。

このフローダイバーター治療も愛媛大学病院に続いて2022年6月から当院でも行えるようになりました。これまで使用した症例のほとんどが1年以内に動脈瘤消失に至っています。脳血管内治療の分野は日進月歩の勢いで進化しております。今後、フローダイバーターも進化し、かなり末梢の細い血管への留置や破裂急性期での使用も可能となるかも知れません。

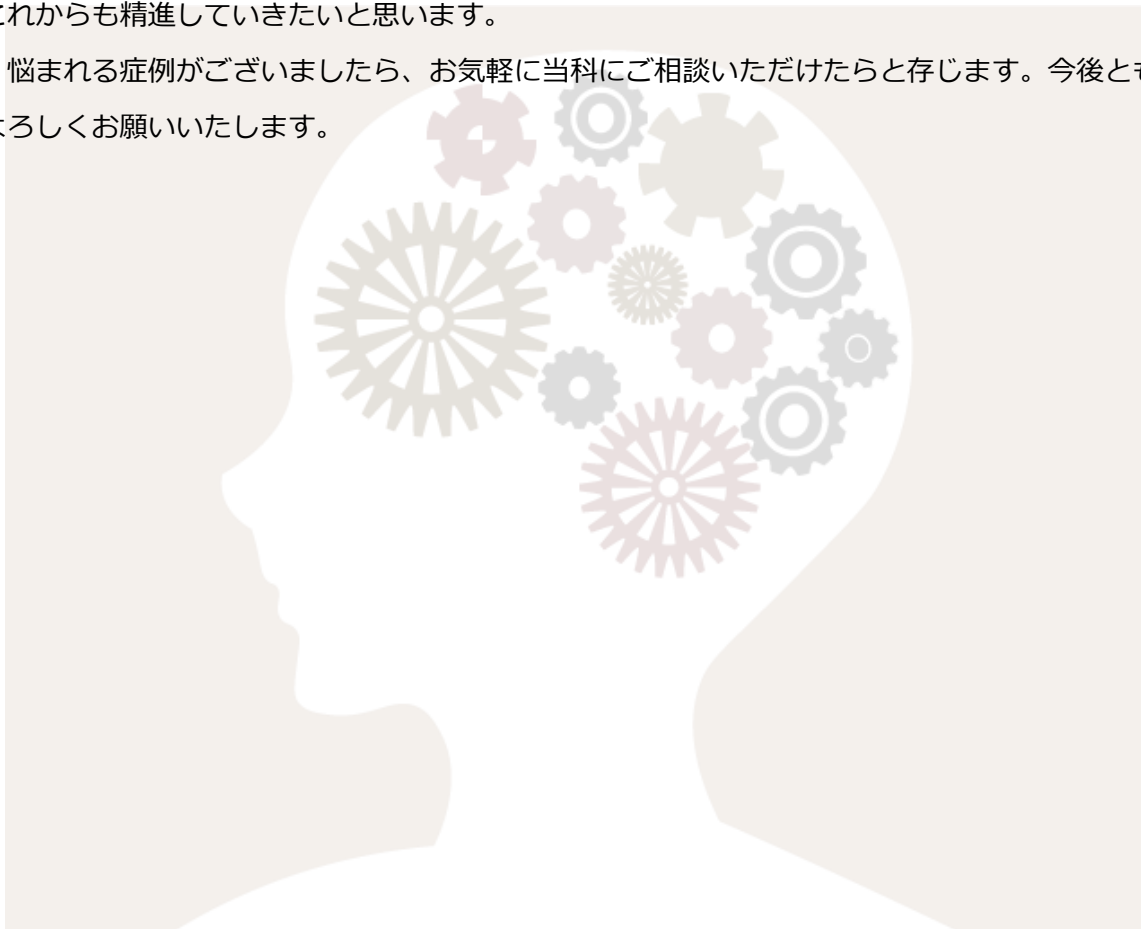
③経橈骨動脈脳血管内治療 (TRN:transradial neurointervention)の導入

血管内治療は大腿動脈を穿刺して行うことが多く、カテーテルによる治療なので、大きな傷もつかず、低侵襲治療と言われています。しかしながら、術後に大腿動脈から出血を来したり、仮性瘤を形成してしまったりすることが時にあります。患者さんも術後の安静を強要され、特に腰痛持ちの患者さんは大変つらい思いをします。

TRNは手首の橈骨動脈を穿刺するため、術後の管理も断然楽になります。最近、橈骨動脈からアプローチするための専用デバイス開発が進み、TRNがますます注目されてきています。当科でも今年7月から導入しましたが、先述のフローダイバーター治療も2例ほどTRNで手技を行うことができました。TRNは術後の患者さんの満足度が非常に高く高評価です。今後さらに経験を重ねスキルアップしていきたいと思えます。

当科は脳卒中に関しては、「愛媛の最後の砦」と誰もが認めてくれるような存在となれるよう日々努力しております。血栓回収療法も脳神経内科と協力し、受け入れ態勢を整え、院内での時間短縮にも努めております。新しい治療も積極的に導入し、患者様に還元できるようこれからも精進していきたいと思えます。

悩まれる症例がございましたら、お気軽に当科にご相談いただけましたらと存じます。今後ともよろしくお願いいたします。



⑤「ソウシンコラム その10」 副院長・総合診療科 主任部長 玉木 みずね

次の診療の場へ

患者さんが高齢になってくると、だんだん通院が難しくなってきます。たとえば遠方から車で通院していた患者さんが、運転が不安になる、免許返納して運転できなくなる、体力的にしんどくなる、等の時です。そして、治療目標そのものも変わってきます。高齢患者さんの心身の健康のためには薬物治療より、転倒しないとか、栄養不足にならないとか、安全な環境にいるといったことの方が重要になってくるからです。その時期になると身近な地域の医療機関へその後の診療をお願いすることになります。

患者さんが次の診療の場へスムーズに移れるように、栄養や運動の大切さを説き、できるだけ減薬し、「安全に、無理しないこと」とお伝えして送り出すようにしています。



[<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ](#)

[お申込・詳細はコチラから Click!](#)

⑥次回の医療連携懇話会のお知らせ

第140回 医療連携懇話会

日時 令和6年11月13日(水) 19:00~20:10

テーマ 神経難病

場所 愛媛県立中央病院 講堂

座長 脳神経内科 主任部長 岡本 憲省

演者 『パーキンソン病患者の日常診療のリアルとトピックス』

愛媛県立中央病院 脳神経内科・総合診療 副院長 吉田 暉

『筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の最近の治療について』

愛媛県立中央病院 脳神経内科 医 長 白岡 朗

『神経難病－神経免疫疾患「治せる脳神経内科」を目指して』

愛媛県立中央病院 脳神経内科 部 長 渡部 真志



お申し込み方法 ホームページの申し込みフォームからお申し込みいただけます。

★当日のご参加も可能です(フォームからのお申し込みは、懇話会開催前日の午前10時まで)

[<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ](#)

[お申込・詳細はコチラから Click!](#)



媛さくらネット

地域医療連携 ネットワークサービス 媛さくらネット

<2024年現在閲覧できる項目>

- ・処方・注射・検体検査・病名・※退院時サマリ・画像(放射線、エコー、生理検査)
- ・循環器動画・放射線画像診断レポート(退院時サマリは2023年4月1日以降の情報となります)

こんな
メリットが

- ・地域で一貫した医療をご提供
- ・検査や投薬の重複をさけ、医療費負担削減

参加
無料

次号の地域連携室便り

次回12月号(No.48)は、2024年12月中旬頃刊行の予定です。お楽しみに!



メール登録のご案内



各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただいております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。

動画視聴のみを希望される医療機関関係者の皆様のご登録も受け付けております！

メールの
ご登録で…

- ・ 医療連携懇話会の限定公開動画がご覧いただけます
- ・ 医療連携懇話会のご案内
- ・ 地域連携室便りの更新のご案内
- ・ 毎月外来診療予定表 などが届きます！



ご意見・ご要望も
お寄せください



動画配信の
3つのポイント！



①
好きな
場所で



②
好きな
時間に



③
繰り返し
再生！



◆お申し込み方法①

- ・ 下記の地域医療連携室のメールアドレスへ、以下を記載し送信してください。

<件名> メール登録（医療機関名）

<本文> 医療機関住所、電話番号

<動画視聴のみのご希望の場合> 「**限定公開動画のみ**」と記載をお願いします

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

◆お申し込み方法②

- ・ 本用紙でのお申し込み

キリトリ ✂

- ・ 愛媛県立中央病院 地域医療連携室に下記の登録をいたします。

<医療機関名> _____

<医療機関住所> _____

<電話番号> _____

<動画視聴のみのご希望の場合> 限定公開動画のみ希望（チェックをお願いします）

<メールアドレス> _____ @ _____

ご記入いただきました個人情報、必要なセキュリティ対策を講じ、厳重に管理し、メール送信の目的にのみ利用させていただきます。